

3月

↓アジュール舞子の草花・花木 3月

サザンカ 山茶花

花の無い時期に咲く貴重なツバキ科ツバキ属の耐寒性常緑高木です。花色には桃色、赤、白等があります。サザンカはツバキと違って、葉縁がギザギザしており、花弁がバラバラに散る。



ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。枝にはとげが生えており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」とよばれたものが「ぼけ」に転訛したとも言われる。



* 山茶花は
芯が立ちやすく樹高が高くなる
花びらが少ない 5~10枚ほど
しわになるものが多い
* 寒椿は
背が大きくなりにくい(背丈が高くなる品種あり)
花びらが多い 14枚以上
しわしわにならない
* 寒椿と山茶花を別物と捉えることは
難しい。



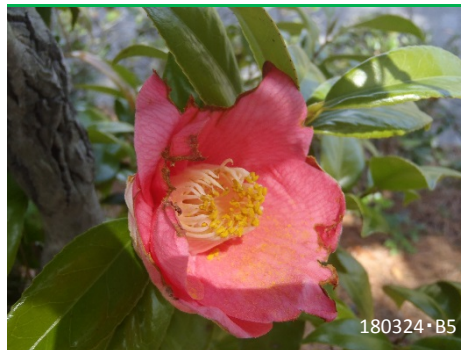
ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間には200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。花は首から丸ごと落下して散る。



カンツバキ 寒椿

サザンカとツバキの交雑種と言われ、よく分枝するが背丈は低い。冬の間、紅、白、桃色の花を咲かせます。山茶花と同じで花弁はバラバラに散る。



↓アジュール舞子の草花・花木 3月

アセビ 馬酔木

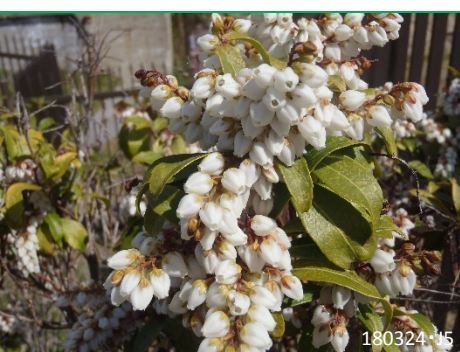
馬が食すと酔ったように苦しむことに由来します。茎葉に有毒物質のアセボトキシンが含まれており人間が誤って口にすると腹痛、嘔吐などの症状を起こすことがあります。春にスズランのような甘い香りのする白い花を楽しむことができます。

ユキヤナギ 雪柳

バラ科シモツゲ属の落葉低木。株元から枝をたくさん出してわさわさと茂ります。緩やかなアールを描きながら長くしなやかに枝垂れる枝と株を被うほど咲く白い花が特長です。

レンギョウ 連翹

モクセイ科の落葉性低木。細長い枝を地際からたくさん伸ばして茂ります。開花期は春で、枝を埋め尽くすほどたくさんの黄色い花を咲かせます。花びらは基部から深く4つに裂けてやや斜めに開きます。



↓アジュール舞子の草花・花木 3月

ヒラギナンテン 柊南天

葉っぱがヒラギ、実の付き方がナンテンに似ているためこの名前があります。葉っぱにはとげとげがあり、冬になると赤く色付きます。春には茎の頂点から花茎を横から斜め下に伸ばして、小さな黄色い花をたくさん咲かせます。



180317・D5



180317・D5



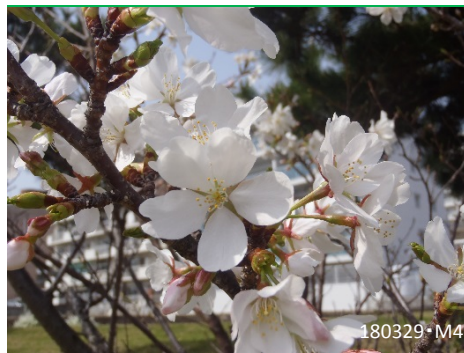
180317・D5



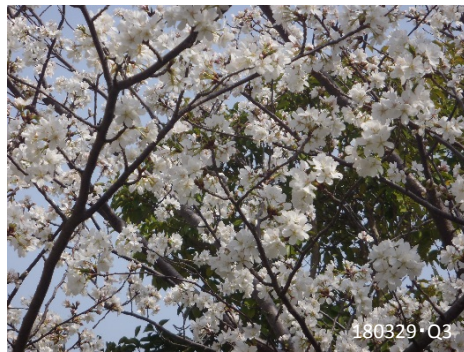
180324・M4



180329・M4



180329・M4



180329・Q3

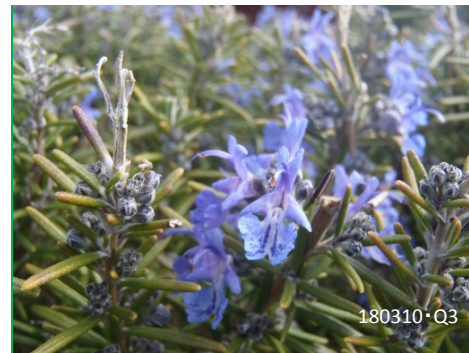
ローズマリー

地中海沿岸に分布する常緑性の低木です。強い芳香があってハーブとして利用される。

葉っぱは3cm程の短い棒状で濃緑色、表面には光沢があります。冬から秋にかけて葉の付け根に淡紫色の花を咲かせます。満開時は枝がたくさんの花で彩られます。



180310・Q3



180310・Q3



180310・Q3

オオシマザクラ 大島桜

オオシマザクラは花が白くて遠くから見るとやや青白く見えるのが特徴です。葉には、よい香りがあり、塩漬けにして桜餅を包むのに使われます。



180329・Q3

ソシンロウバイ 素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みたいな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。

↓アジュール舞子の草花・花木 3月



180303・G5

ハナズオウ

花の咲く時期は4月から5月、葉を出す前に葉の付け根に蝶型の花が数輪まとまって咲きます。花は赤紫色で、大きさは約2cmです。花茎が極端に短いので枝に直接くっついてるように見えます。満開時期は花が枝を覆います。花後にキヌサヤインゲンを短くしたような平たい豆鞘がたくさん垂れ下がり、熟すと褐色になります。

ヒメウツギ

ウツギは万葉集にも24首の歌が詠まれ、初夏を飾る花として古くから親しまれています。ヒメウツギは全体に小柄でウツギよりもほっそりしているので「ヒメウツギ(姫空木、姫卯木)」といわれ、この「ヒメウツギ」や「マルバウツギ」、「バイカウツギ」などを総称してウツギといいます。

ハナカイドウ 花海棠

ソメイヨシノが咲き終わる頃に紅色の可憐な花を枝いっぱい咲かせます。

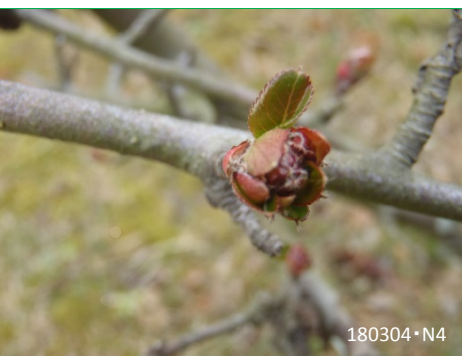
花びらは雄しべと雌しべを軽く包むような半開状態になり、完全に開きません。



180324・J5



180329・R3



180304・N4

カメリア(椿) エリナ・カスケード

ツバキ科ツバキ属の常緑中低木。椿の仲間で花が最小で、中国の野生種を改良した園芸品種。枝が細いので湾曲し、先端が下垂する枝垂れ性の椿で、春に白色で外弁花が薄桃色の小花を咲かせます。

ナワシログミ

枝の先は、しばしば棘になる。マツ林などの明るい二次林や林縁などに生育している。葉の表面には星状の毛が点々とあり、独特の模様となっている。果実は4月から5月の「苗代」を作るころに赤熟するので、ナワシログミの名がある。



180317・N4



180324・H4



180303・J5



180329・N4



180324・H4



180329・E5

↓アジュール舞子の草花・花木 3月

ユリオプスデージー

南アフリカ原産の常緑低木です。小さいうちは草花のような姿ですが、年を経ると茎は太くなって表面がごつごつした樹木らしい姿になります。葉は羽状に深く切れ込んで表面に柔らかい毛が密生し、灰白色に見えます。冬～春の花の少ない時期に一重の黄色い花を咲かせます。



スイセン・ティタティタ

ミニ水仙ティタティタとは、冬～春に咲くユリ目ヒガンバナ科スイセン属の耐寒性球根植物、水仙の背丈が低い園芸品種です。花は黄色(レモン色)で、花被片は後に反り返っています。花名の「Tete a tete」とは、フランス語で「内緒話」をするから付けられています。

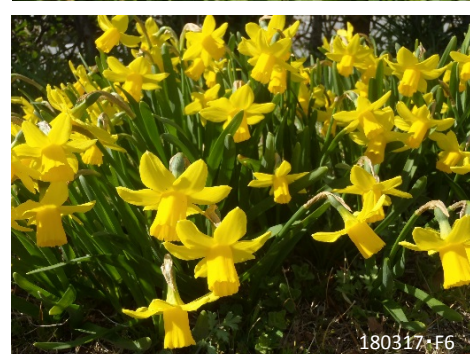


ナノハナ 菜の花

菜の花(なのはな)は、アブラナまたはセイヨウアブラナの別名のほか、アブラナ科アブラナ属の花を指す。菜とは食用の意味であり、菜の花とは食用の花の意味である。春、一面に広がる菜の花畑は壮観で、代表的な春の風物詩でもある。

スイセン 水仙

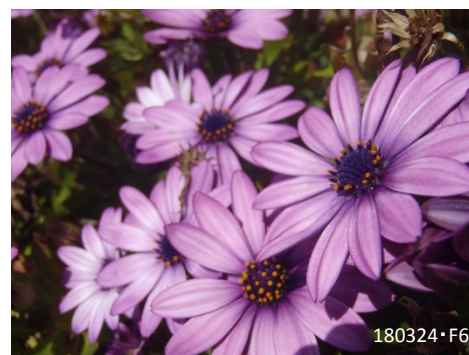
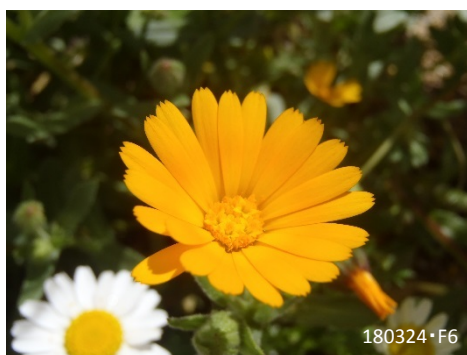
ヒガンバナ科スイセン属の多年草。春を告げる草花として古くから親しまれています。スイセンの仲間はおよそ30種の野生種があり、全草に毒性があり、葉っぱがニラ、球根がタマネギと間違えられて食中毒を起こすケースがよく見られます。



ラップスイセン

高さは20～30センチになり、3月から4月ごろ、芳香のある花を咲かせます。一茎一花で、ふつうの「スイセン」に比べて副花冠が長く、ラップ状になるのが特徴です。

↓アジュール舞子の草花・花木 3月



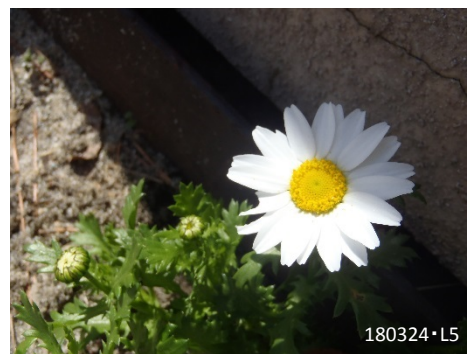
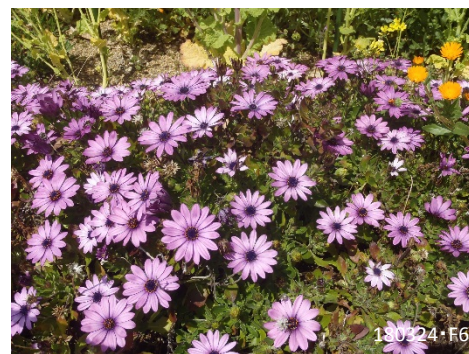
キバナハナニラ

黄花花萼

黄色い花を咲かせる球根性多年草です。春に、萼のような線形の葉から細い花茎を伸ばし、その先に六弁花を咲かせます。葉や鱗茎は葱臭がします。黄色いクロッカスに似た花を咲かせ、白花を咲かせるハナニラが一般的です。

ノースポール

北アフリカ原産、1970年前後に日本へ入ってきた草花。草丈は20cm～30cm。葉はやや細長くギザギザと切れ込みます。主な開花期は春～初夏で径3～4cmの白い花を咲かせます。中心の目の部分が黄色で、ノジギヤマーガレットに似た花姿です。



フユシラズ 冬知らず

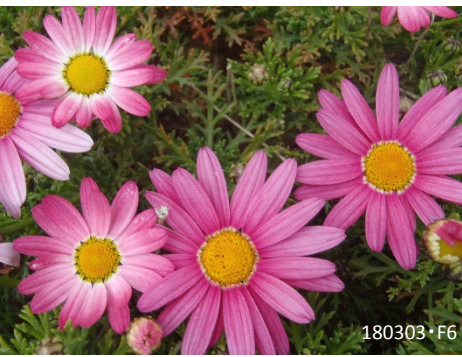
春咲き一年草のキンセンカ(金盞花)の近縁で、キンセンカ(カレンジュラ)の寒さに強い品種です。花はキンセンカを二回り程小さくした感じで、黄色～オレンジ色の花をつける。日が当たると花が開き、夕方に閉じる。

オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフオセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります

マーガレット

3-7月に花をつける。白色の一重咲きが普通であるが、黄色やピンクのもの、八重咲き、丁字咲きのものもある。本来は宿根草であるが、日本では温暖地でないと越冬できない。



180303・F6



180303・O6

ツルニチチソウ 蔓日々草

南ヨーロッパから北アフリカにかけて分布するつる性の亜低木です。常緑性でつるは地面を這うように伸びるので、グラウンドカバーに利用されます。



180317・F6



180310・O6



180329・E6

クリスマスローズ

クリスマスローズを含む、キンポウゲ科ヘレボラス属はヨーロッパから西アジアにかけておよそ20種、中国に1種が知られる、毎年花を咲かせる多年草です。

シバザクラ 芝桜

北米西部原産の毎年咲く多年草です。茎は立ち上がらずに横に這うように広がって4~5月に花を咲かせます。環境が良ければ一株で径50cmほどに広がり、満開時の地表を埋め尽くさんばかりの花は見応えがあります。花は色は白、ピンク、藤色などがある。



180303・H5



180317・E6

セイヨウタンポポ 西洋蒲公英

キク科タンポポ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。環境省指定要注意外来生物。日本の在来種とは外側の総苞の反る点が異なる。



180303・O6



180317・E6



180317・N6

↓アジュール舞子の草花・花木 3月



180310・I6

カタバミ 片喰

カタバミ科カタバミ属の多年草。
地下に球根を持ち、さらにその下に大根の様な根を下ろす。
繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る雑草である。
アカカタバミ、ウスアカカタバミ、タチカタバミ等がある。



180303・F6

ノゲシ 野芥子

ノゲシは世界至る所に帰化している植物であり、原産地はヨーロッパであると考えられている。荒地や空き地などに生育している。秋に芽生え、春から夏にかけて茎をもたげて花を付ける。種子の綿毛は絹状の毛であり細い。



180303・C6

プリムラ・ジュリアン

サクラソウ科サクラソウ属の園芸植物。冬から春の花が少ない時期に、赤、白、ピンク、紫、黄色などのポップな色彩の花を咲かせる草花です。



180310・B6

アカカタバミ



180317・B6



180317・F6

ノボロギク

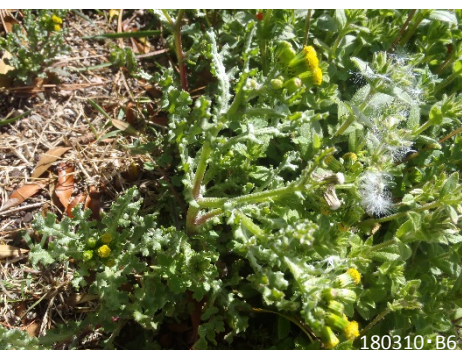
ヨーロッパ原産の1年草。明治始めに帰化し、畑などの他、道路のほたりや植栽枠の中などに普通に生育している。葉はつやがあって柔らかく、シュンギクに似た形である。花は真冬にも咲き、一年中見られるが、冬から春にかけて咲いているのがよくめだつ。

イオノプシディウム

アブラナ科の植物で、小さい株を覆うように、とても小さい花が咲きます。花は十字形で、環境により白～紫色に変化します。それほど強くはありませんが香りがあります。葉もとても小さく、丸いかたちをしています。



180317・F6



180310・B6



180303・F6

ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋が付きまします。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。

↓アジュール舞子の草花・花木 3月



180309・F6

ガーデンシクラメン

サクラソウ科シクラメン属

日本の農家が寒さに強い系統を選抜、交配し開発した品種です。通常のシクラメンは霜に当たると、一発でダメですが、ガーデンシクラメンは弱るものの枯れるわけではありません。お庭に露地植えするのに向いています。



180317・G5

オランダミミナグサ

ナデシコ科ミミナグサ属の植物。小柄な一年草の雑草である。ヨーロッパ原産で、外来種として世界中に分布している。日本在来のミミナグサよりも花柄が短いので、花が集まったように見える。全草が柔らかい毛に覆われている。



180317・H5



180324・R3



180317・F6

ホトケノザ 仏の座

葉のつき方が「仏の蓮座」に似ていることからこの名がついた。春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコのことです。本種とは異なる。

幼苗期にはオオイヌノフグリに似ているが、ホトケノザの方が細長く伸び、やや赤みを帯びていることが多い。



180303・C6

ハコベ属

単にハコベというときは、ハコベ属の1種であるコハコベのことを指す場合が多い。コハ春の七草のひとつ。茎のつけ根に花径4~6ミリの小さな白い五弁花をつける。細い花びらが10枚あるように見えるが、これは5枚の花びらがそれぞれ2つに深く裂けているためである。

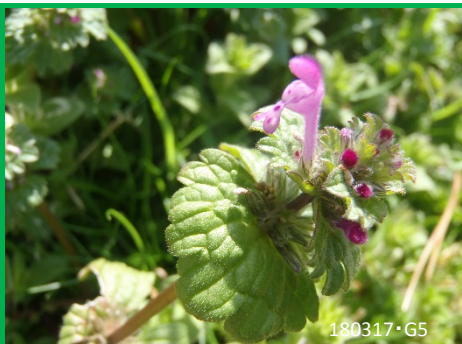


180329・F6



コハコベ

180303・C6



180317・G5

ナズナ 薺

別名 ペンペン草 三味線草
アブラナ科ナズナ属の越年草。田畑や荒地、道端など至るところに生える。ムギ栽培の伝来と共に日本に渡来した史前帰化植物と考えられている。春の七草の一つで、若苗を食用にする。かつては冬季の貴重な野菜であった。



コハコベ

180324・R3

↓アジュール舞子の草花・花木 3月

ミチタネツケバナ

アブラナ科タネツケバナ属の越年草または一年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。空地や道端などに生える雑草。タネツケバナよりもやや乾燥した場所に生えていることが和名の由来。在来種のタネツケバナは水田など湿気の多い場所を好んで生えます。



ヒメオドリコソウ

姫踊子草

3月～5月に咲くシソ科の花で、先端の葉の脇に、ホトケノザに似た小さな唇形をした淡い紅紫色の花をたくさんつける。



フラサバソウ

オオイヌノフグリの近縁種で、花は小さく花径3～4ミリで目立ちにくいですが、花が小さい分ガクの縁や葉の白い毛がよく目立つ。茎は分枝し横に広がり、先端はやや直立。葉はほとんど互性、広楕円形。

キュウリグサ

3～5月に咲くムラサキ科の花。野原や道端に生息する越年草。花径2～3ミリくらいの淡い青紫色をした小さな五弁花を上向きにつける。

花の中心は黄色くなっている。和名は、葉をもむとキュウリのようにおいがすることに由来する。



オオイヌノフグリ

大犬陰囊

和名はイヌノフグリに似てそれより大きいために付けられた。フグリとは陰囊のことで、イヌノフグリの果実の形が雄犬の陰囊に似ていることからこの名前が付いた。花弁は4枚。色はコバルトブルーだが、まれに白い花をつけることがある。



↓アジュール舞子の草花・花木 3月

コメツブツメクサ 米粒詰草

マメ科シャジクソウ属の一年草。
道端や河原などに生える雑草。
和名は、シロツメクサに似ている
が全体に小さいことに由来する。



180316・J6



180316・J6

カラスノエンドウ

空き地・畑・道端など、どこにでも
生えているマメ科の野草。先
端の柔らかな若芽と花の部分を
摘んで生のまま天ぷらにするとマ
メ科特有の風味がして美味しい。
サヤエンドウを小振りにしたような
若鞘は天ぷらにすると結構イケル。



180331・H5



180331・H5



スズメノエンドウ

ソラマメ属のつる性の越年草。和
名は、カラスノエンドウ(ヤハズエ
ンドウ)より小型であることから
「スズメ」を当てた。



180331・H5



180331・H5

シロツメクサ 白詰草 (クローバー)

マメ科シャジクソウ属の多年草。
別名、クローバー。
原産地はヨーロッパ。
花期は春から秋。



180318・C6

カスマグサ

カラスノエンドウに似て、カラスより
小さいというので、スズメノエンドウ
と名付けられています。さらに、この
2種の間のような野草があります。
カラスノエンドウとスズメノエンドウ
の間、つまり、カラスの「カ」とスズ
メの「ス」の間(この漢字は「マ」とも
読みます)で、カスマグサなのです。



180331・H5



野豌豆 三姉妹

左: カラスノエンドウ 中: スズメノエンドウ

右: カスマグサ

スズメノヤリ

雀の槍

イグサ科の草地などによく見かける小型の多年草。花穂の様子を大名行列の毛槍(けやり)にたとえたものであるというのが通説です。「スズメ」は小さいことを表す場合によく名付けられます。



彼岸花の葉

彼岸花はお彼岸の頃に真っ赤な花を咲かせ、数日で花が終わって茎だけになります。葉は花が終わった10月頃から生えてきて、寒い時期に色濃く茂り、春先に枯れ始めます。冬場に光合成して養分を貯えます。多くの植物は春先に芽を出し秋に枯れますが。

